



計測隊  
60周年記念誌

*Instrumentation SQ*

*The 60<sup>th</sup> Anniversary*



## 目次

計測隊長挨拶 . . . . . 3

### 祝辞

飛行開発実験団司令 . . . . . 4

飛行実験群司令 . . . . . 5

歴代隊長 歴代准曹士先任 . . . . . 6

沿革 . . . . . 7

試験・日常風景 . . . . . 8

計測隊員集合写真 . . . . . 10

編集後記 . . . . . 11



## 計測隊長挨拶

計測隊長

2等空佐 平田 健一

計測隊は、令和4年10月1日をもって部隊創隊から60年を迎えることができました。

この間、航空自衛隊唯一の飛行計測部隊として、F104Jを皮切りに、C-1、T-2、FS-T2改、T-4、F-15、F-2、C-2といった航空自衛隊の主力航空機の飛行計測装置の維持整備を担うとともに、平成6年からは、飛行試験管制システム（FTCS）の運用・維持に携わって参りました。

こうして無事、60周年を迎えることができたのは、ひとえに、基地内外関係各位の深いご理解とご協力の賜物であり、計測隊を代表して心から厚くお礼申し上げます。

近年、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増すばかりであり、装備品等の研究開発に寄せられる期待は益々大きくなってきていると考えられます。令和4年度末に策定された安全保障に関する3文書では、研究開発の活用による装備品の早期実装化が求められている次第です。

計測隊は、装備品等の研究開発における計測システム全般の運用、維持及び整備を一手に担っており、試験を計画、実行する部隊を支える言わば「縁の下の力持ち」として研究開発になくてはならない唯一無比の存在であると言えます。今後の航空自衛隊における研究開発を「縁の下の力持ち」として力強く支えていくため、幹部、空曹士及び技官のそれぞれ一人一人が、プロ意識を固持し、計測隊が一丸となり真摯に任務に取り組む所存です。諸先輩方が積み上げてこられた良き伝統と輝かしい歴史を礎とし、最新の科学技術と新たな時代へ対応すべく日々努力を積み重ね、成長し続けられる計測隊を目指します。

今後は、次期戦闘機の開発等、大きな事業が計画されています。計測装置、FTCSは、科学技術の進歩、試験規模の拡大に合わせた近代化及び大規模化が予想されます。計測隊の任務の重要性は益々高まることを自覚し、「縁の下の力持ち」としての誇りを胸に、一致団結、部隊の精強性を追求してまいります。

最後になりましたが、平素よりご支援を頂戴している関係部隊、関連会社の皆様、地域住民の皆様に心から感謝の意を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

今後とも、計測隊へのご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 飛行開発実験団司令 祝辞

飛行開発実験団司令  
空将補 霜田 豊英

飛行実験群計測隊創立60周年、誠にありがとうございます。飛行開発実験団の隊員を代表し、心からお祝い申し上げます。

計測隊は、昭和37年に入間、立川基地において設立されて以来、航空機の試験計測などに従事してきたところ、昭和42年にここ岐阜基地へ移動し、当時、最新の数々の機材・装置を導入、これらを活用して航空機やミサイルの電子的、光学的計測の体系を確立してきました。そして、平成6年からは飛行試験管制システム（FTCS）の運用を開始し、その近代化を行いながら現在に至ります。

特にXF-2の実用試験では、施設内において飛行試験をリアルタイムにモニターする態勢を初めて構築し、各種の試験を行い、XC-2の実用試験では、FTCSに加えて、機上計測装置を使用した飛行試験管理態勢を構築し、効率的な試験の実施を行い、それぞれ新規機種の開発を済々と成し遂げ、航空自衛隊の研究開発の重心として活躍してきたことは特筆すべき事項です。

現状において、計測隊では、現有装備品等の技術的追認と称する装備品等の能力を向上するための試験を実施し、数々の成果を上げています。その結果、航空自衛隊、ひいては日本の防衛力の強化に直結する重要な業務を実施しています。そのような中で計測隊の隊員一人ひとりが前向きに一步前進する気概をもって真摯に任務にまい進している姿は団司令として頼もしい限りです。また、令和4年度末に策定された安全保障に関する3文書では研究開発の活用による装備品の早期実装化が言及されており、今後は飛行開発実験団として、この方針に応じた任務に邁進する状況が予想されます。計測隊においても状況の変化にしっかりと追随し、創意工夫しながら着実に成果を上げてほしいと思っています。

これまで新規開発事業をけん引し成果をあげてきたことは、計測隊の作り上げてきた歴史そのもので、数々の偉大な先人達の努力と、それを受け継いで今に生かしている隊員たちの誇りの証であり、心より敬意を表します。今後も計測隊が、「真摯とプロ意識」との指導方針を掲げる隊長を核心として益々発展することを祈念し、創設60周年のお祝いの言葉といたします。



## 飛行実験群司令 祝辞

### 飛行実験群司令 1等空佐 野口 英臣

計測隊創隊60周年、誠におめでとうございます。

計測隊発足以来、F-104Jの計測装置から始まり現在も現役で使用しているF-15、F-2、C-2、T-4の計測装備の維持、そして飛行試験実施の際の中核となるFTCSの維持運用まで、技術の変化に適切に対応し、飛行開発実験団の多種多様な計測装置等の維持、運用を一手に担う重要な役割を、日々淡々と遂行している隊員に敬意を表します。

私もXF-2技術・実用試験当時はFTCSや機体の計測装備を日々活用して飛行試験を実施していましたので、当時から今に至るまで計測隊には大変お世話になっております。一飛行隊員であった当時は計測装備やFTCSが何も問題なく機能していることが当たり前のように思っていました。計測隊を指揮する飛行実験群司令という立場に立ってみると、故障が頻発する計測システムを部品が枯渇していく中においても計測隊員が高いプロ意識をもって創意工夫により大変な苦勞をしながらなんとか機能させているのがとてもよくわかりました。これも歴代計測隊長のご指導のもとこれまで計測隊で勤務されてこられた諸先輩方が維持向上されてこられたプロフェッショナルとしての高い意識と卓越した知識、技量の賜物であると理解しております。そしてその伝統は現在の計測隊員にもしっかりと受け継がれております。

また、計測隊は飛行実験群の中でもっとも空曹、空士が多い隊であり、基地、団、群の各種活動への戦力投入の主力です。計測隊員はその立場を十分理解しいつも明るく各種活動を実施しており、QCサークル活動では毎年素晴らしい成果をあげ優秀な成績を残しておりますし、先日の団ソフトボール大会では飛行実験群本部チームの助っ人（実質主力）として大活躍してくれました。隊長や班長、上級空曹の的確な指導のもと、幹部から空士に至るまでそれぞれ自分の任務をしっかりと果たして団の任務遂行に大いに寄与しており大変頼もしい存在です。

今後は、FTCSや計測システムも大きく変化、進化していくことが予想され、航空自衛隊の唯一の機能を有する部隊として、その任務の重要性はますます高まることと思います。引き続きそれぞれが立場に応じて確実に自分の任務を果たしつつ、次の態勢に柔軟に適応していけるよう、隊長を核心として必要な知識、技量を養い、シンカしていくことを期待するとともに、隊員の皆様のますますのご健勝を祈念いたします。



## 歴代隊長

初代	3等空佐	田辺	春弥	S37.10.1	～	S37.12.14
2代	2等空佐	松原	健次郎	S37.12.15	～	S40.8.1
3代	2等空佐	近藤	春己	S40.8.2	～	S42.3.30
4代	2等空佐	渋谷	常雄	S42.3.31	～	S43.7.31
5代	2等空佐	三春	定雄	S43.8.1	～	S45.7.31
6代	2等空佐	浜田	堯志	S45.8.1	～	S46.8.1
7代	2等空佐	立山	尚武	S46.8.2	～	S48.2.15
8代	2等空佐	秋山	玄雄	S48.2.16	～	S49.7.15
9代	2等空佐	興津	英輔	S49.7.16	～	S51.8.1
10代	2等空佐	塚本	俊夫	S51.8.2	～	S54.4.1
11代	2等空佐	坂本	新太郎	S54.4.2	～	S56.3.19
12代	1等空佐	岡部	輝生	S56.3.20	～	S58.7.31
13代	2等空佐	高橋	久男	S58.8.1	～	S59.7.1
14代	2等空佐	加藤	釵嗣	S59.7.2	～	S60.9.30
15代	1等空佐	伊東	暢雄	S60.10.1	～	S62.7.31
16代	2等空佐	丹野	正義	S62.8.1	～	H元.8.31
17代	2等空佐	内田	守政	H元.9.1	～	H4.3.15
18代	2等空佐	畑田	雅彦	H4.3.16	～	H6.3.31
19代	2等空佐	大川	新太郎	H6.4.1	～	H7.7.31
20代	2等空佐	大島	聖	H7.8.1	～	H9.12.15
21代	2等空佐	小野	実	H9.12.16	～	H12.3.24
22代	2等空佐	東井	勇治	H12.3.25	～	H15.3.24
23代	2等空佐	力石	務	H15.3.25	～	H17.3.31
24代	2等空佐	相原	祐二	H17.4.1	～	H19.3.31
25代	2等空佐	堀内	秀基	H19.4.1	～	H21.8.14
26代	2等空佐	坂	徳彦	H21.8.15	～	H23.8.31
27代	2等空佐	真宗	秀之	H23.9.1	～	H25.7.31
28代	3等空佐	中尾	秀司	H25.8.1	～	H28.6.14
29代	2等空佐	三木	忠幸	H28.6.15	～	H30.7.31
30代	2等空佐	永友	賢治	H30.8.1	～	R2.7.31
31代	2等空佐	平野	祐治	R2.8.1	～	R4.7.31
32代	2等空佐	平田	健一	R4.8.1	～	現在

## 歴代准曹士先任

初代	空曹長	栗林	富雄	H20.4.1	～	H22.1.25
2代	空曹長	中尾	英一	H22.1.26	～	H25.6.30
3代	空曹長	荒川	俊一	H25.7.1	～	H29.11.30
4代	空曹長	菅野	潤	H29.12.1	～	R4.7.31
5代	空曹長	津田	恭生	R4.8.1	～	現在

# 沿革

年号	出来事
1954年 (昭和29年)	航空自衛隊発足（防衛庁発足）
1955年 (昭和30年)	「実験航空隊」を編成完結（浜松基地）
1957年 (昭和32年)	「実験航空隊」を浜松基地から岐阜基地へ移駐 (岐阜基地がアメリカ合衆国より一部返還)
1961年4月1日 (昭和36年)	<p>実験航空隊 審査隊に計測班（班員10名）が新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ F-86Fによるテレメータ計測訓練のため実験航空隊入間移動訓練隊として、7月に入間・立川基地に展開した。</li> <li>・ 9月14日に計測展示演習を実施。テーマは戦闘機の撃墜能力をリアルタイムに定量的に評価できることの展示であったが、テーマの目的を果たすことはできなかった。しかし、時々刻々の飛行諸元や、パイロットの呼吸脈拍等を地上のオシログラフでモニターできることを主要な関係者に展示でき、認識を深め、翌年（昭和37年）の計測隊設置へとつながった。</li> </ul>
1962年10月1日 (昭和37年)	<p>実験航空隊計測隊として新編発足（入間、立川）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隊長及び総括班、整備工作班は入間基地に、計測班は立川基地（技術研究本部第3研究所内）に分散して所在した。</li> <li>・ 計測班はテレメータ及び受信機、Pb-250コンピューター、磁気テープ再生装置及び記録装置を置いて、航空機の試験計測に関する作業を実施した。</li> </ul>
1968年3月30日 (昭和43年)	<p>計測隊が入間、立川から岐阜基地への移動を完了</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計測隊庁舎に移転</li> <li>・ 内部組織を改編</li> <li>・ 飛行実験群が新編。（10月1日） (飛行隊、航空機技術隊、計測隊、整備隊の4隊編制)</li> </ul>
1974年4月11日 (昭和49年)	「実験航空隊」が廃止され、「航空実験団」が新編
1989年3月16日 (平成元年)	「航空開発実験集団」新編に伴い、「航空実験団」が廃止され、「飛行開発実験団」が新編

**計測隊創設  
記念日**



# 試験・日常風景

## 計測隊の 試験等業務①

飛行計測装置の整備及び運用を実施し、試験担当  
隊からの計測要求書に基づく作業を行います。



飛行計測装置の飛行前点検



飛行計測装置の計測項目設定



飛行計測装置の整備作業(F-2)

計測隊の  
試験等業務②

FTCS及び地上局等の整備及び運用を実施し、試験  
等で取得したデータの処理作業を行います。



飛行試験時のアンテナ操作



データの記録及び処理



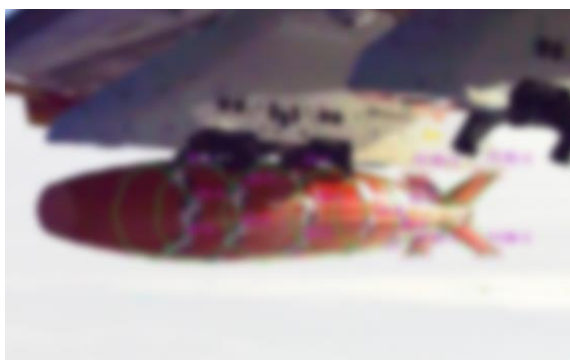
飛行計測装置の飛行前点検

計測隊の  
試験等業務③

航空機搭載カメラポッド及びカメラ等の機材を用いて、飛行試験及び地上試験の光学計測及び解析を行います。



XC-2の物量投下試験における  
光学計測（シネセオドライト）



航空機搭載カメラポッドによる  
JDAM投下試験時の  
光学計測及び画像解析



# 計測隊員集合写真



## 編集後記

今回、60周年記念誌の編纂を通じて、諸先輩方が紡いできた歴史を知ることができました。今、計測隊に所属していることに誇りを持つとともに、これまでの歴史を後輩に責任をもって繋いでいきたいと改めて認識しました。

編集長：平田 2 佐

